

平成 28年度 自己評価の結果について

学校法人博愛社学園 学園幼稚園

1. 本園の教育目標

本園はキリスト教の精神に基づき、幼い時から「神と人を愛する」
正直で愛情と勇気に富み、「命の大切さを尊ぶ」豊かな情操をもった
園児の育成を目標に教育を目指す。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本年度も 異年齢のかかわりと防災活動の充実
基本的生活習慣を見直す
目に見えない空間、環境を大事にし、園児のこころの成長にプラスになるよう努める。
さらに特別支援教育の充実。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
異年齢の関わりをさらに増やし、子ども自身がけんかやトラブルを解決していく力を身につけ、気持ちのコントロールが出来て行く課程を待ち見守り、保育者はそれを受け止める。	毎日の中で3歳・4歳・5歳が関われる場を必ず設ける。 さまざまな体験を通して感性を育て、けんかやトラブルなどの出来事も子どもの力になり、生きる力となって行く様見守る。 園での子どもの様子を伝え、保護者にも子どもの姿を受け止め理解して頂けるよう努める。
子ども達の防災への関心を深め、教師はより瞬時の判断能力を高める。	様々な状況を想定した訓練を積み重ね、教師も子ども達も基本的な事は身に付いてきている。 その場の状況に応じた瞬時の判断は容易ではなく、訓練の継続に今後も努めていく。
	大事なことと自覚していけるよう職員ひとりひとりが 神さまの愛を感じ、信じる者となり、愛を伝えていけるようにしている。 キリスト教の精神に基いた保育の在り方を深め園内の質を高める。
保育の在り方、幼児への対応	園児との関わりの中で常にひとりひとりの見取りと理解が出来る様努める。 大事なことと自覚していけるよう職員ひとりひとりが 神さまの愛を感じ、信じる者となり、愛を伝えていけるようにしている。
保護者への対応	HP等での保護者、地域、外部への情報提供に努め、保護者、地域に信頼される園づくりに一層取り組む。 保護者から出された意見に対しては、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善出来る様取り組んでいる。
特別支援教育を教職員及び保護者にも取り組めるように共通理解をする。	専門の臨床心理士を中心に特別支援の具体的方法を進め、園だけでなく保護者の理解も深めていける様、こどもの様子を伝え共通理解が持てるよう努める。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教員が本当に一生懸命保育に携わった。頑張り子ども達ひとりひとりの成長に繋げていけるよう、目に見えないものを大切に子ども達とすすみます。
旧職員の協力等を得、祈りの中子ども達の健やかな運営することが出来た。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育の充実	保護者への理解を深める。特別支援が必要な子のケース会議の中身を深める。
施設設備の充実	園舎建て替え等、子どもや職員にとってより充実した保育環境の整備準備に取りかかる準備をする。

6. 学校関係者の評価

素晴らしい幼稚園なのになくなるのは本当に残念です。
園舎は古いですが、行われている保育の雰囲気にとってもお祈りがいっぱい幼稚園・園舎を感じます。
行事など園児がとても楽しそうにして、普段の様子が見えました。
大変だろうと思う中でも特に指摘すべき事項はなく、園の状況判断・運営は妥当であると認められる。
教育・安全対策ともによく配慮されていると思います。
毎日の保育のプログラムが色々有り、子ども達の成長に繋がります。
色々な状況の中で本当にひとりひとりを大事にして頂き、きつとすごく大変なんだろうと思う。
親の見えていない所で子どもと本当に向き合いひとりひとりを大事にされているのを感じた。
家庭で足りない所を丁寧に子どもと関わって頂いた。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。
